

ロータリークラブの変化と未来



オレンジは変化、ブルーは知性と信頼、この組み合わせで自分自身を変え、世界を変えながら、共に前進したいという熱い思いの表現

2680地区ラーニングファシリテーター 矢野宗司(加古川中央RC)

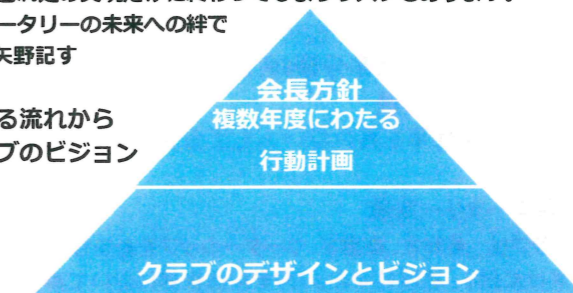
単年度から複数年度へ

2023年11月 国際ロータリー(RI)理事会の決定事項

- ・2025-26年度から、会長の年次テーマとロゴの作成を廃止することに同意
- ※1953年～ RI会長エレクトが国際協議会で短いテーマを発表
- ・コミュニケーション委員会と戦略計画委員会が提案し、理事会が承認した2025-26年度からの複数年にわたる行動計画を軸とした会長メッセージの枠組みを承認
- ・2024-25年度からクラブ、地区、ゾーンレベルの3年間の段階的なターゲットと3年間の段階的な地域計画を設定するプロセスを承認

これまでロータリーは単年度制が重視されていました。地区のガバナーしかり、クラブの会長しかり、いずれもその年度は自らの信念に基づいて運営をします。しかしながら、単年度制による運営にはロータリーの未来像が欠如します。将来を見据えたビジョンを備えなければ、その年度のリーダーの単なる自己満足の実現だけに終わってしまうリスクもあります。今、ロータリーに求められているのは、確かなビジョン、まさにロータリーの未来への絆であります。 2020-21年度 ガバナー月信 戦略計画委員長 矢野記す

今後、ロータリーは単年度ごとにクラブの会長が方針を決める流れから大きく変化する。⇒単年度ではなく、複数年度にわたるクラブのビジョンと行動計画(戦略計画)が不可欠⇒単年度制からの脱却
⇒クラブ活性化のチャンス
クラブをしっかりとデザインし、ビジョンを明確にし、具体的な行動計画を立てる。



研修システムの変化

トレーニング(training)モデルからラーニング(learning)モデルへ
⇒一方的な研修スタイルから学習者主体の研修スタイルへ
地区研修リーダー(district trainer)
⇒地区ラーニングファシリテーター(district learning facilitator)

※facilitate 容易にする 手助けする
※RLI(Rotary Leadership Institute)の採用 34地区中29番目

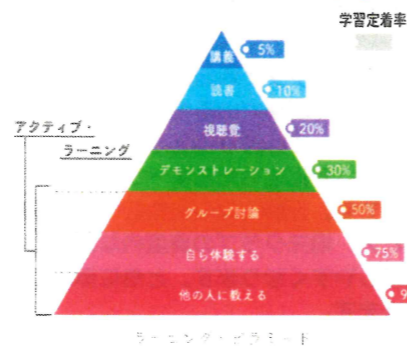
現代のように、世界が絶えず変化し、不確実で、複雑で、曖昧な時代(VUCAの時代)においては、問題に対する答えを 前例や有能な個人に頼ることが困難。卓越した個人に頼るのでなく、多様で多彩なひとりひとりの個性に基づく知恵を集め、重ね、まぜあわせて「これからの答え」をともに創っていく必要がある。

Volatility(変動性) Uncertainty(不確実性)
Complexity(複雑性) Ambiguity(曖昧性)

Join Leaders Exchange Ideas Take Action

学校教育

定まった答えを「教える」⇒課題に向き合って「探求する」
「主体的・対話的で深い学び」の実現がキーワード
⇒ロータリアンも学習文化に対する意識を変えていく必要



適応と変化

ジョン・ヒューコ 2011年～国際ロータリー事務総長
2019年～最高経営責任者(CEO)



2024 国際協議会にて

・献身的な長年のロータリアンだった父は、自分のクラブの会員数が数年間で急減しているのを見て、クラブが変わる必要性を訴えていました。
「なあ、ジョン、会員が減り、新会員が入会してこないが、それは私たちが適応と変化に苦勞しているからだ。会員のニーズと期待に沿った体験がクラブでできるようになる必要がある。」

父の言葉は20年前に正しく、今も真実であり続けています。世界は急速に変化し、ロータリーはそれに合わせて変化する必要があるからです。私たちはそのペースに追いついていません。

・新会員のうち、10%以上が入会后1年以内に退会 退会者の約半数は3年未満の会員
主な退会理由

1. 費用や時間の負担 30%
2. クラブ環境 23%
3. 期待と違っていた 19%

・2016年に入会したロータリアンのうち、61%が2020年までに退会

・年間約15万人が入会し、年間約15万人が退会

⇒退会した会員は、ロータリーに対する否定的な見方をほかの人と共有する⇒ロータリーブランドに害が及ぶ

素晴らしいクラブになる方法は、革新の精神を持つこと

クラブ活性化へのポイント1 ロータリーの変革という考えを受け入れる

ロータリーは常に変化してきている⇒価値観・知識・意識のアップデート(最新の状態へ更新する)

①一業種一会員制の緩和

- ・1949年 **一都市一RCの完全廃止**(アディショナルクラブを認める)により、実質的に一業種一会員制ではなくなる。

※アディショナルクラブとは？

地域を分割するという方法で、同一市内にいくつものクラブを持つことができるようになった。

⇒日本のロータリーは、高度経済成長と相まって、著しい拡大の時期を迎える

1954年 神戸東RC創立

2013～ 拡大から収縮へ

伊丹有明RC・伊丹昆陽池RC解散⇒伊丹RCのみ 宝塚RC・宝塚中RC合併

神戸西RC・神戸北RC合併 明石西RC・明石南RC合併⇒明石東RC

- ・2001年 同一職業分類5名以内、51名以上のクラブは10%まで

②多様な会員基盤

- ・2013年 仕事を持たない人も正会員となることを認める

国際ロータリー定款

クラブは、**善良さ、高潔さ、リーダーシップ**を身をもって示し、事業、専門職務、職業および/または地域社会でよい評判を受けており、**地域社会および/または世界において奉仕する意欲のある成人**によって構成されるものとする

ロータリーは男性を中心とした社交クラブ？

クラブ活性化の障壁要因

「ロータリー、かくあるべし」という固定観念

ロータリーは男性を中心とした社交クラブ？

女性会員の入会を拒む⇒Inclusionの一番の障害

・RI理事会の目標 女性会員の割合を30%

(現在26.3%) 110カ国以上で既に達成

※ 1988年 会員数 約104万人

2024年 会員数 約118万人

男性会員 約87万人 女性会員 約27万人

・日本のロータリー 7.3%(ワースト1)

⇒ロータリーを男性社会と考えるベテラン会員

※ワースト2 ベルギー 12.8%

アメリカ 34% 韓国 24%

女性の会員増強に大きく立ち遅れる日本

・2680地区 5.9%(全地区中ワースト2)

男性会員のみ 5年前 31/73 (42.5%)

現在 17/68 (25%)

※ジェンダーギャップ指数

日本 116/146 (2022年) 先進国の中で最低

皆さんの「あるある」が相対的。経験豊かなゲストが、真剣に、時にはユーモアを交えてお話をします。

相対

「あるある」が相対的。経験豊かなゲストが、真剣に、時にはユーモアを交えてお話をします。

「あるある」が相対的。経験豊かなゲストが、真剣に、時にはユーモアを交えてお話をします。

クラブ活性化へのポイント2 変革を起こすテクノロジーを活用する

・Volatility(変動性)

価値観や社会の仕組みの変容やテクノロジーの発展により、先を見通すことが難しい

- ・スマートフォンやSNSの急速な普及による変化や新型コロナウイルス感染症による

テレワークの一般化、さらにはChatGPT等

驚異の進化を遂げるAI

- ・DX(digital transformation)の積極的活用

⇒ITの浸透が人々の生活をあらゆる面で変化させる

- ・ITに詳しい若手会員を積極的に勧誘する



継続と変化のバランス

■アーチックRI会長

継続と変化のバランスを取ることの必要性を強調

⇒どちらもロータリー行動計画の原動力

ロータリーの行動計画(Action Plan)、そこからロータリーのマジックが始まる

これは、皆さんの地区(クラブ)でのやり方を変えることを意味するかもしれませんが、地区(クラブ)が過去50年間に同じ方法で物事を行ってきたのであれば、おそらくそれを見直す時が来ているでしょう。



地区内のクラブが活発に活動していない場合、または会員が減っている場合、地域社会にもっと合った新クラブを結成する時が来ているのかもしれませんが、クラブや地区が長年変わっていないからといって、誰も変化を望んでいないわけではありません。

好ましい変化をもたらす一つの方法は、クラブで多様性、公平さ、インクルージョン (DEI) の原則を取り入れることです。行動志向の次世代の人たちをオープンな心で迎えていただけることを願っています。

たとえ、地元クラブの典型的な会員とは異なるタイプの人であっても、DEIを受け入れれば、共通の目的のために結束しやすくなります。ともに献身し、力を注げば、ロータリーは最も効果的で時代に即した存在になることができます。

クラブ活性化へのポイント3 破壊的イノベーション

新たなロータリーモデル(クラブの多様性)

既存の概念にとらわれず、新たな発想を積極的に取り入れることで、新しい価値感を生み出す

・e-クラブ 主にオンラインで例会を行うロータリークラブ

・食事をしないクラブ

クラブ名	2018.6.30	2024.9.30
HYOGO REC	24	12
西宮イブニング	20	11
神戸モーニング	28	25

・衛星クラブ 従来型クラブにより提唱されたロータリークラブで、独自の例会、プロジェクト、細則、理事会を有する(設立メンバーは8名以上) 世界 819 日本 14 ※宝塚ユニバースロータリー衛星クラブ

・米山学友を中心としたクラブ 台湾2 日本6

・パスポートクラブ 会員が自分の所属クラブで毎年一定数の例会に出席する限り、ほかのクラブの例会や奉仕プロジェクトに出席することを認めるロータリークラブ

2015年 グレーター・サクラメント・パスポートクラブ(最初のパスポートクラブ)

2019年 ゴールドコースト・パスポートクラブ 半数以上女性 例会月一回金曜の夜 会費 月22米ドル

※2570パスポートクラブ 会員数2名⇒解散

・法人クラブ 会員が同じ職場で働いている(ただし職場内では異なる職務を担当している)ロータリークラブ

※ベントレー・チェシャーロータリークラブ 会員数25名 大半はベントレーの社員 9カ国の国籍

新たなロータリーモデル(クラブの多様性)

・活動分野に基づくクラブ 会員が特定の活動分野に情熱を注ぎ、その分野の奉仕活動に取り組んでいるロータリークラブ ※ツインシティ・ロータリーエコクラブ(米国ミネソタ州) 環境保護に重点を置く 会員数25名 女性会員12名 40歳以下11名

・ハイブリッドクラブ(複合クラブ)

※愛知三州ロータリークラブ(2760地区のパイロットクラブ) 月2回の例会、1回はface to face

1回はオンライン 30名の会員 30代9名 40代8名

※沖縄首里ロータリークラブ 2023年1月26日設立 26名 現在40名 男性30名 女性10名

内訳 沖縄21名 東京4名 大坂2名 兵庫6名 山形・富山・神奈川・京都・福岡・佐賀・宮崎各1名

沖縄首里女性活躍ロータリー衛星クラブ 11月1日設立 30名 男性4名 女性26名

新しいロータリーモデルの共通項

・通常の会費には食事が含まれず、そのため会費が安い

⇒金銭的負担の軽減

・オンラインを積極的に活用

・平均年齢が低い

・親睦(交流)と奉仕を主目的、ステータスは求めている



新たなロータリーモデル

・フィラデルフィア ロータリークラブ

多様な会員モデル⇒若い会員が入りやすいクラブづくり

・フル ・アラカルト ・ハッピーアワークラブ

・あすかロータリークラブ(2650地区)

チームASUKA 現在100名以上の会員 会員はロータリアンの家族、社員、一般市民

ロータリーと共同で奉仕活動⇒寄付による奉仕活動から汗をかく奉仕活動への転換



運動も年を経ると、定型化し、先例に固執し、価値がなく、不合理なことが今までそうであったからという理由だけで継続されます。ロータリーがその適正な運命を実現するとしたら、ロータリーは常に進歩しなければなりません。時には革命が起こる必要があります。(ポール・ハリス)

国際ロータリーはどこへ向かっているのか

□ 基本になる考え(2015年10月の理事会決定事項)

ロータリーは時代に追いついていかなければならない

ロータリーは時代に適応しなければならぬ

ロータリーは将来への備えができていなければならぬ

□ 基本になるキーワード

柔軟性・多様性・革新性(DFI・Diversity・Flexibility・Innovation)

⇒ 日本のロータリー 硬直性・画一性・保守性

・例会の柔軟性⇒例会から奉仕プロジェクトの実践を重視

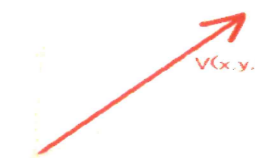
2010年RI理事会「ロータリーは例会を重視する文化から参加を重視する文化へと変換を図らなければならない。」 スチュアート・ヒルRI理事(長期計画委員長)

・会員基盤の多様性⇒職業人に限らず、より多様なリーダーによる会員構成

	RIの考え方	日本の伝統的な考え方
活動の中心	奉仕プロジェクトの実践	例会
会員基盤	多様なリーダー	職業人
職業奉仕の位置づけ	プロジェクトの一つ	職業理念・倫理の重視
奉仕の主体	団体奉仕	個人奉仕

日本の価値観に固執するだけでは、世界のロータリー運動の中で、大きな潮流や変化に取り残され、世界のロータリーの中で孤立していくことが懸念されている。⇒ ロータリーの阻害要因 ・教条主義 ・固定観念

・渋沢 栄一 「論語と算盤」 or ではなくand 俯瞰的視点(Bird's-eye view)に立とう



X 柔軟性 Y 多様性 Z 革新性



クラブの持続可能性と未来

クラブもその規模は様々であり、よって立つ地域の特性も違います。何もすべてのクラブが金太郎飴のごとく均一である必要もありません。例えば、青少年奉仕に特に力を入れるクラブもあれば、奉仕の理念を学び会員の研修に力を入れるクラブ、地域のための奉仕プロジェクトに積極的に取り組むクラブ等、個性あるクラブもまた魅力の一つです。クラブの現状分析の元、クラブの弱みを克服するもよし、あるいはクラブの強みをより生かすことによってクラブの魅力をさらに強くするもよし、まさにクラブのデザインとビジョン、行動計画次第です。



SWOT分析でクラブを分析しよう